

「病的な老化」を抑え、元気な長寿に導く予防医療で男性顧客にもアピール

赤坂AAクリニック院長の森吉臣氏は、わが国有数のアンチエイジング医療の専門医として知られる。高齢者人口が圧倒的に増える今日、健康・予防医療に目覚めた若者層からシニアまで広く集め、日本の医療界に新たな旋風を吹き込む。



赤坂AAクリニック
院長・医学博士
森吉臣氏
Mori Yoshimi

免疫力強化や美容皮膚など
抗加齢・抗老化医療の専門医

貴院は「アンチエイジング医療」の専門クリニックですが、どのような医療なのか、簡単に説明ください。

森 ●アンチエイジング（抗加齢・抗老化）医療の主な目的は、体の内と外から若返らせることで、その目的は自己治癒力を活発にして老化や病気を防ぐものです。積極的な予防医療と言えます。老化や病気の原因となる危険因子をアンチエイジング検査で見つけ、治療でそれを取り除くのです。健康人をより健康に。する医療とも言えます。最近では、一歩踏み出して、肥満者のメタボリックシンドローム予防やガンの

手術後の再発予防など、具体的な病気に予防にも関わっています。女性の場合には美容への関心度が高く、美容もアンチエイジングに極めて大切です。

具体的な治療方法などはのちほどお聞きするとして、先生がアンチエイジング医療を志した動機について。

森 ●私は日大医学部や獨協医科大学で病気の本質を究明する病理学を専門にしていました。病院では病気の病理診断に携わってガンだけでも10万人以上診断しました。医学がこれだけ発達し、健診やドックが普及したにもかかわらずガンの罹患率も死亡者数も年々増加している現実を、何とか打破できないかと考えるようになっていました。到達した結論は、今までの早期発見、早

期治療では無理だということ。こ

れからの医療はガンにさせない予防を第一に考えるべきだと思うのです。残念ながら、日本では医療制度上、病気の予防は抜けています。病気になるまで治療の対象にならないのです。私もガン年齢になり、自分のためにも医療で病気を予防することを考え始めたわけです。ちょうどその頃、アメリカではアンチエイジング医療が始まっていて注目を浴びていることを知り、私が目指す医療はこれだと確信を持ったのです。それで大学教授を60歳のときに辞職して、1年間アメリカに留学、帰国してこのクリニックを開業しました。今までの専門が基礎にあります。新しい挑戦をスタートさせたわけです。

大きな決断だったわけですね。

森 ●このクリニックはたぶん日本で最初の検査・診断・治療を行なうアンチエイジング専門のクリニックですが、開院した当初は残念ながらアンチエイジング美容のレベルなんです。男性のほとんどはアンチエイジングの言葉を知りませんでしたし、女性で知っている方でも「美容、コスメティック」、シワやシミを取る、など……。ところが、本来アンチエイジングは、美容の他に、若々しい元気な健康体を取り戻す内科的治療があるのです。

18歳から84歳まで、
幅広い患者層に大きな訴求効果

患者層はどんな分布でしょうか。

森 ●開業当初は女性100%でしたが、半年ほどでテレビや週刊誌などに取り上げられるようになって、男性も増えはじめ、現在は女性50、男性50とほぼ同率です。美容皮膚科の人数は増えていますが、全体での比率は減り、抗老化内科（アンチエイジング内科）や、ガン統合医療外来などが増えています。

——男性患者がそれだけ増えてきた理由はどこにあるのでしょうか。

森 ●仕事のため、家族のために健康に気をつけようという男性、自分のためにも健康意識の高い男性の間に、老化を防いでくれて、元気にしてくれ、病気も予防してくれる新しい医療が始まっていることの情報広がったことだと思います。インターネットの普及やマスクミによる情報が大きな要因ではないでしょうか。

一般的な男性の人生は30代から50代までがむしろに働いて、酒、たばこ、運動不足……。定年で60歳を超える頃には身体はあちこち故障して、生活習慣病やガンで医者通い。薬が手放せなくなる。だいたいこのパターン、想像できるでしょう。で、70歳過ぎに亡くなる。この流れを何とか食い止めるには予防医療しかありません。本来、人間は誰でも120歳とか130歳まで

生きられる遺伝子をもっているのに、70歳や80歳で亡くなるのは病的な老化要因があるからなんです。現在の西洋医学は、血圧が高ければ降圧剤をというような対症療法が基本です。そうではなくて、自然治癒力や免疫を高めるなど身体の根本から治療しなければならぬ。「老化しない、病気にならない身体づくり」、それを医療的にサポートすること。私たちは「オプティマルヘルス」最高の健康状態」と定義し目指します（図表1）。

——マスクミが目にした、それを見た人たちが来院する、受け入れられる素地が社会にあつたわけですね。

森 ●そう思います。医学に対する考え方が根本的に変わらなければならぬ。病院やクリニックは病気になるから行くところ、これを「病気にならないために行くところ」に変える、この意識改革が必要なんです。病氣予備軍の方

はもともと少なくありません。人間ドック受診者の約8割は再検査が必要と診断され、何らかの異常が発見されますが、経過観察で終わってしまう。そのまま2年ほど経過すると、立派な病気になる。アンチエイジングで、小さな異常のうちに治療してオプティマルヘルスに戻していれば、病氣にな

らずに済んだかもしれません。病氣知らずで人生をずっと楽しんでいられるのです。

人間ドックや、一般の病院での正常値は、病氣でない人の血液検査の値を基に「正常値」を決めています。この正常値の範囲内には、実は元気な人もいれば、病氣寸前の人も含まれます。アンチエイジングでは、同じ正常値であっても上のほうの数値（Aクラス）を維持しなければならぬ。でない、長寿にはなりません。正常値でもその年代の一番良好な数値にある人を先ほど言ったオプティマルヘルスと呼んでいます。未病の人をオプティマルヘルスまで引き上げることが私たちの目標なのです。

未病のうちから病氣を抑制、病的老化を根本から治療

病氣と老化の抑制ですね。

森 ●そういうことですが、ここで覚えておいていただきたいことは、「老化するのは当たり前」という世間の常識をまず改めることです。老化には、①加齢とともに避けられない生理的な老化、②病的な老化があり、老化は①と②を足して進行していきます。その現われ方や程度は人によって差がありま

■図表1 身体の中から若返り ～治療から予防へ～

オプティマルヘルス



同クリニックのアンチエイジングサイクルは身体の中から真の若返りを目指す

出所：赤坂AAクリニック

東京・赤坂サカス前の赤坂AAクリニック（新赤坂ビル5階）



す。同窓会でも先生と間違われるほど老けた人、逆にみんなより若々しい人がいるでしょう。これは病的な老化の違いによるものです。

この病的な老化をゼロに近づける治療をするのです。生理的な老化だけなら、人間は120歳まで生きられます。80歳で亡くなった場合、病的老化が生命を40歳縮めたと解釈できませんか？つまり、病的老化を病気だと考えてみましょう。病気である以上は治療の対象になるわけです。「老化は当たり前」と考えると、そこで何の対策も治療もできません。ならば、若返りは本当に可能でしょうか？病的な老化を治した途端に身体機能が回復して若返ります。不老不死は人間の永遠の願望ですが、21世紀のいまやつとその糸口を見つけたというところでしょうか。

現在、アンチエイジングは世界的にもとても大きな広がりを見せています。米国アンチエイジング医学会には世界約70か国から約2万人の医師が参加しています。医学会の中でも最大級の規模になっています。日本はまだ緒にたばかりですが日本抗加齢医学会の会員数は約3000人と急激に増加して、一般者にも医療者にも関心が広がっています。「アンチエイジング」を名乗る

クリニックは少しずつ増えていますが、アンチエイジング専門の総合的なクリニックとして開業している私のようなケースはまだ少ないでしょう。市場として、アンチエイジングをまだまだ正しく知らない方が圧倒的に多いですからね。ただ、先ほど患者層のことがでましたが、抗加齢だからといってシニア層ばかりではありません。20歳代、40歳代の方も増えていきます。当院の抗老化内科の来院者は18歳の方から最高齢は84歳の方までおられます。世代別構成比は、20歳、40歳代が20%、40歳、50歳代が40%と最も多く、60歳代が25%、70歳代以上は15%と幅広いですね。料金システムはその方にふさわしいメニューにより、さまざまですので、ホームページをごらんください。月1万円からのコースもあります。

明確な目的意識のもと さまざまなメニューで対応

簡単ではないでしょうが、検査・治療法についてお伺いします。

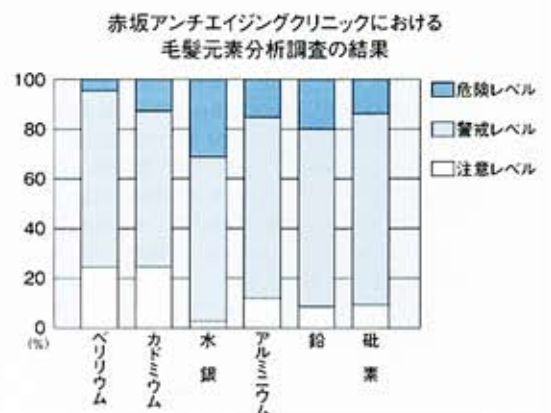
●その前にアンチエイジングで最も大事なことをお話しします。それは患者さんにとって、「目的は何か」なんです。若く元気になって何をするのか。この目的意識が明確でないと、私も患者さん

も治療する意味がありません。84歳の患者さんは社会会長ですが、まだまだ現役でやり抜くといって燃えています。世の中には長生きしなくていい、成り行き任せでいいと考える方々もおられ、それはそれで良いと思います。その一方、若返って元気になって、もう一度会社を興したい、再婚したいという方もおられる。私たちは、その方のライフスタイルに合った生き方をお手伝いする立場です。不景気になってくると、まず健康、健康が第一だからという目的意識でもいい。皮膚の美容にしても、健康でなければ、お肌はきれいになりません。体内に毒素が溜っていたら、健康とはいえません。

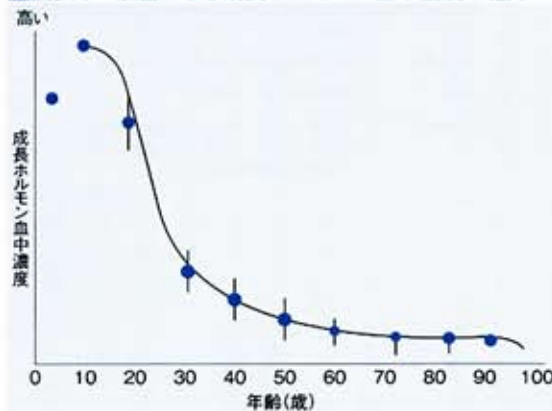
若い患者さんで多いのは慢性的に疲れた方やウツの方です。元気が出ないのは体内の栄養バランスが悪いとか、毒素が溜っていると、原因は必ずありますから、これを突き止めて元気を回復させることが大切になります。同時にどういう生活をしたらいいか、その生活指導も一緒にやっています。

私の治療法は、初診の方とはまず1時間、ライフスタイルや時に人生観などをじっくり話しあうことからはじめています。本格的に始めるならアンチエイジングドックですが、簡単に言う

■図表2 毛髪有害ミネラル分析の統計



■図表3 加齢による成長ホルモンの血中濃度の低下



とドックないし検査は、病気になる危険因子を探します（通常のドックは病気を探すが目的）。今の生活を続けていくと、こういう病気になるリスクが高い、と。さらに老化の要因を探します。酸化ストレス、抗酸化力、ボディバランス、血管老化度、血液老化度、

脳年齢、免疫力年齢、疲労・ストレス度、ホルモンバランス、ビタミンバランス、ミネラルバランス、毛髪有害ミネラルなど、通常のドックではほとんどやらないような検査を行います。毛髪検査（図表2）は、毛髪中の有害ミネラルがどれだけ含まれているかを検査し体内の汚染程度を推定します。その有害ミネラルを体外に排出するのが「キレーション療法」です。有害ミネラルには、水銀、鉛、アルミニウム、カドミウム、ヒ素などがあり、脳、腎臓、肝臓、消化管、血管などを広範囲に傷害します。日本では水銀が多く、アメリカでは鉛が多い傾向があります。放っておくと、心筋梗塞やガンなどさまざまな病気を引き起こします。若い世代からキレーションをやっておくと老化防止に効果的です。キレーションは動脈硬化の治療にも有効で、アメリカでは盛んに行なわれています。

40歳代以降では、「レドックス（抗酸化）療法」が重要です。血液中に有害な活性酸素（フリーラジカル）量が増えると細胞を錆びさせて傷つけます。老化やガン、動脈硬化などは40歳を越えると急に進行しますから、その予防に抗酸化力を高める治療が必要になります。

50歳代以降では「ホルモン補充療法」（図表3）、この療法は加齢とともに減っていくホルモンを「減った分だけ」補充して老化現象を抑えます。顔のシワ、シミ、たるみなどの外観の衰えだけでなく、疲労・虚脱感、代謝低下、性欲減退、筋力低下、内臓脂肪の沈着からメタボリックシンドロームへの移行といったさまざまな老化現象の防止にも有効です。

女性も男性にも更年期障害があります。従来なら歳のせいにして、そのまま諦めていましたが、最近ではアメリカでも老化を我慢せず、ホルモンを補充することで再び若々しい健康体を回復しています。これは運動選手のドーピングとは違って、ヒト本来のナチュラルホルモン（成長ホルモン、DHEA、メラトニン、エストロゲン、テストステロン等）を血液検査で適正量をモニターしながら補充するので安全に行なえます。実は私自身、3年前からすでに体

験しており、若者体質に戻ったことを確認しております。このほか、血液をオゾンで浄化することで活性酸素を除去し、免疫力を高め、細胞を活性化させる「血液クレンジング療法」も有効です。ガン年齢ですから、ガンの治療・再発・発症予防を目的とした「ガン統合医療外来」やさまざまなアンチエイジング効果を引き出す「点滴外来」などのメニューを揃えています。点滴外来の基本的な考えは、分子栄養矯正医学の理論に基づいています。簡単に言うと、今までの年齢や身長から割り出したカロリー優先の栄養学ではなく、60兆の細胞の機能を考えた分子レベルでの細胞機能重視栄養学です。目的によって多種類の点滴を用意していますので、点滴外来で細胞活性化、免疫強化、体力・スタミナを強化して、体調万全で仕事に立ち向かい、レジャーも元気いっぱい楽しんで120%の人生を過ごしてください。また、これからは、スポーツ選手の体調管理などスポーツ向けアンチエイジングにも力を入れていきたいと考えています。

——ありがとうございます。



森 吉臣（もり・よしおみ）

1943年生まれ。日本大学医学部および日本大学大学院医学研究科卒業。医療法人啓仁会追浜中央病院内科、皮膚科、米国カリフォルニア大学医学部附属病院・腎研究室、日本大学医学部附属板橋病院病理科を経て、1984年獨協医科大学越谷病院勤務（教授）、1998年同病院副院長。2004年同大教授を退任、米国でアンチエイジング医療研修。2005年東京都赤坂に「赤坂アンチエイジングクリニック」開院、院長に就任。現在、獨協医科大学名誉教授、日本抗加齢医学会専門医、日本臨床抗老化医学会認定医、点滴療法専門医。NPO法人日本アンチエイジングメディカル協会理事長。医学博士。

学生時代はジャズバンド（アルトサクソ）に熱中、スキー、山登りほか多彩な趣味。著書「アンチエイジングがよくわかる本」ほか、テレビ・ラジオ、講演等多数出演。21世紀の医学を駆使した「老化しない、病気になるない」生き方を説いている。

クリニック概要

名称	赤坂AAクリニック
所在地	東京都港区赤坂3-13-10 新赤坂ビル5階
院長	医学博士・森 吉臣
診療科目	アンチエイジングドック、美容皮膚科、アンチエイジング内科、点滴外来、ガン統合医療外来ほか